



2025年1月16日

各位

会社名 株式会社オキサイド
代表者名 代表取締役社長(COO兼CFO) 山本正幸
(コード番号: 6521 東証グロース)
問合せ先 総合企画本部マネージャー 石坂美保
(TEL. 0551-26-0022)

2025年2月期第3四半期 決算説明会の質疑応答(要旨)について

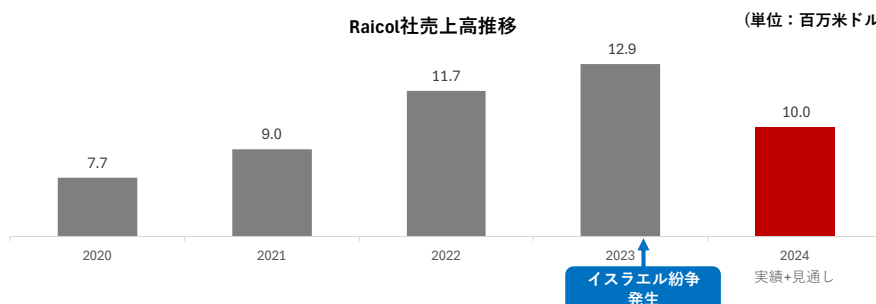
当社は、昨日決算説明会(アナリスト・機関投資家向け)を開催いたしました。ご出席の皆様からいただいた主なご質問を以下にまとめております。なお、理解促進のため、一部加筆修正を行い要旨として記載をしております。

- Q. Raicol社“のれん”減損の原因は買収時の事業計画と実績の乖離とありますが、なぜそういった乖離が生まれるのですか。また、今後業績回復することで減損は避けられるのではないですか。
- A. イスラエル紛争以降、一部の顧客からのオーダーが低迷していること、イスラエル周辺国との貿易制限の発生、そして一部顧客でのイスラエル製品に対するサプライチェーン懸念の高まりを受けた製品切替等により、Raicol社の売上高と営業損益において当初予想と乖離が発生しました。イスラエル紛争がどうなるかはいまだに不透明感があります。また、仮に停戦がなされた場合でも、Raicol社業績が速やかに回復するかどうかは慎重に見極めが必要です。これらを勘案して、今後の業績予想においては保守的な見込みをすることが妥当であると考えております。

Raicol社“のれん”減損の背景と今後の方針

OXIDE

- 2023年3月に買収したRaicol社“のれん”全額に相当する27億1,500万円を減損します。減損の要因は、Raicol社買収時点で想定していた事業計画と実績との間に乖離が生じたためです。
- 乖離の主な原因は、イスラエル紛争以降、一部の顧客からの受注が低迷、イスラエルと一部の周辺国との貿易制限の発生、そして一部顧客におけるイスラエル製品に対するサプライチェーン懸念の高まりを受けた製品切替等です。
- イスラエル紛争による不透明感が拭えないため、Raicol社の今後の成長に関しては買収時より保守的に見込みます。
- Raicol社の技術やノウハウは依然として当社グループ全体の価値向上に寄与するものであり、買収時に掲げた事業領域(量子、宇宙・防衛、半導体)の拡張とクロスセルの強化という戦略方針に変更ありません。



Q. MS ワラント開示前に比べて株価は 50% 近くとなり、ほぼ資金調達もできず、結局この MS ワラントで何がしたかったのですか。株価を下げるために行った施策だったとしか思えません。

A. 当社は、中長期の成長の為の資金調達として、発行時に公募増資や追加借り入れ等複数の資金調達手法を比較検討し、昨年 8 月に本 MS ワラントを発行しました。

発行当時の段階では、イスラエル情勢の不透明感や半導体事業の回復基調度合い等、通期業績進捗を見極めることが非常に困難でした。このため、公募増資や第三者割当増資の選択を取るとは実質的に難しく、MS ワラントが最良の選択肢であると判断しました。

発行後の市場動向や事業環境の変化を踏まえて、研究開発費の全体額の見直しと資金調達代替手段の検討を行いました。あわせて、更なる希薄化を回避することも勘案し、MS ワラントを取得及び消却することを決定しました。

株価の低迷については株主の皆様大変ご心配をおかけしております。今後、業績回復に取り組み、オキサイド全体の企業価値の向上に努めることで株主の皆様にご貢献するのが経営陣としての責務であると考えております。

行使価額修正条項付第 8 回新株予約権の取得及び消却

OXIDE

- Raicol社“のれん”減損、今期通期業績の下方修正を踏まえて今後の経営方針を慎重に検討した結果、2024年8月に発行した行使価額修正条項付第8回新株予約権を取得及び消却することを決定しました。
- 消却により当初の資金使途を見直しました。今後の対応は以下のとおりです。

当初の資金使途

研究開発費

- ・ パワー半導体分野
- ・ 量子分野
- ・ 次世代単結晶及びレーザ
- ・ その他

2,274 百万円

設備投資

- ・ 半導体事業レーザ製品メンテナンス需要への増産対応
- ・ その他研究開発に関連する設備投資

799 百万円

財務関連資金

- ・ 借入金の繰り上げ返済

3,108 百万円

今後の対応

研究開発費の総額と調達方法の見直し

- ・ テーマの優先順位付け、絞り込み
- ・ 開発規模圧縮による研究開発費の削減 (20-30%の削減)
- ・ 公的補助金、開発受託の活用 (約1,000百万円)
- ・ 子会社オキサイドパワークリスタルによる資金調達を含む自己資金の充当 (約800百万円)

銀行長期借入金にて調達済み

借入時の返済スケジュール通りに返済

- ・ 将来の事業キャッシュフローを原資に長期借入金を当初のスケジュール通りに返済する (年間約1,100百万円の返済)

- Q. オキサイドの成長性に期待して投資してきましたが、2年連続の赤字、減損、株価低迷など失望しています。今後の成長が重要だと考えていますが、新領域の資料「進展がある研究開発テーマ」だけではよくわかりません。もう少し詳しくご説明ください。
- A. 当社は、半導体やヘルスケアといった既存事業に加えて、決算補足説明資料で言及しております新領域の4つの研究開発テーマの事業化に取り組んでまいります。それぞれのテーマは、将来の市場拡大が期待され、かつ当社の競争優位性を発揮できる分野です。各テーマについて、ひとつずつご紹介いたします。

先端光計測：深紫外レーザー

先端光計測分野についてご説明いたします。

東京大学物性研究所は、レーザー光電子顕微鏡と呼ばれる新しい電子顕微鏡を開発しました。電子線をスキャンする従来の走査型電子顕微鏡と異なり、レーザー光電子顕微鏡は深紫外レーザーをウエハ全面に照射し発生する電子のイメージを一括記録するため検査の大幅な高速化が可能です。さらに、半導体のリソグラフィプロセスにおいて、レジストに露光した回路パターンを現像前に検査する「潜像イメージング」が可能であり、プロセスの開発加速にも貢献します。今回の東大物性研の研究には当社の深紫外レーザーが使用されています。

なお、昨年11月に、株式会社日立ハイテクと東京大学が、半導体分野における上記顕微鏡の実用化に向け、共同研究を推進することを発表しました。

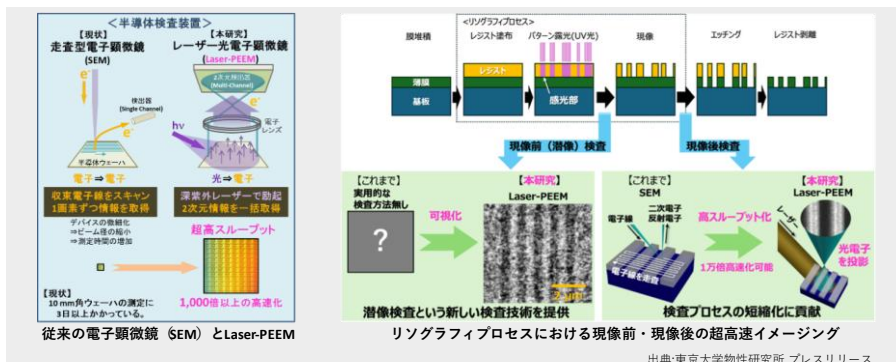
半導体プロセスの回路パターン検査を1,000倍以上の高速化する技術として、将来大きな需要が期待されています。

新領域

先端光計測：深紫外レーザー

OXIDE

- 東京大学物性研究所は、レーザー光電子顕微鏡と呼ばれる新しい電子顕微鏡を開発しました。これを活用すると、現像前に回路パターンの欠陥を検査する「潜像イメージング」が可能です。この開発には当社の深紫外レーザー（波長57.5nmおよび266nm）が使用されています。※1
- 株式会社日立ハイテクと東京大学が半導体分野における上記顕微鏡の実用化に向けた共同研究を推進することが発表されました（2024年11月14日）。※2
- 半導体プロセスの回路パターン検査の1,000倍以上の高速化が可能のため、将来大きな需要が期待されています。



※1 出典:東京大学物性研究所 プレスリリース
 ※2 出典:株式会社日立ハイテク プレスリリース

量子：量子もつれ光源用モジュール
量子分野についてご説明いたします。

国内の大学研究機関や LQUOM 社を中心に、次世代の量子インターネットの研究開発が進展しています。当社は、お客様のニーズに合わせ、結晶・デバイスからモジュールへとより付加価値の高い製品開発を進め、キーとなるコンポーネントを開発し販売しています。

当社は、量子通信分野の最先端研究者からのご要望に基づき、量子もつれ光子対を高効率で生成することが可能な波長変換モジュールを開発し、実用性の高い製品として販売を開始しました。

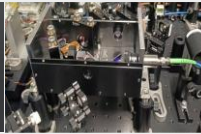
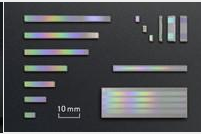
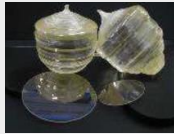
新領域

量子：量子もつれ光源用モジュール

OXIDE

- 国内の大学研究機関やLQUOM社を中心に、次世代の量子インターネットの研究開発が進展しています。
- お客様のニーズに合わせ、キーとなるコンポーネントを開発し販売しています。結晶・デバイスからモジュールへとより付加価値の高い製品開発を進めています
- 当社は、量子通信分野の最先端研究者からのご要望に基づき、量子もつれ光子対を高効率で生成することが可能な波長変換モジュール（コンバーターモジュール）を開発し、実用性の高い製品として販売を開始しました。

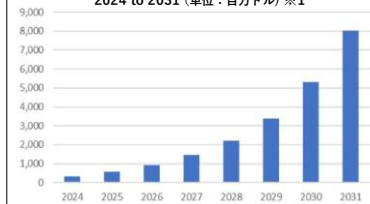
当社製品



マクロ環境

量子通信システム市場は、2031年は80億ドルになると予想されています。

Total Market for Quantum Networking Systems, 2024 to 2031 (単位：百万ドル) ※1



パワー半導体：溶液法 SiC、酸化ガリウム

パワー半導体分野についてご説明いたします。

昨年 12 月 1 日に、子会社 オキサイドパワークリスタル社へオキサイドの SiC 事業を吸収分割し、事業開始しました。また、昨年 12 月に開催された SEMICON Japan では、溶液法で育成した直径 6 インチの p 型 SiC ウェハとブリッジマン法で育成した直径 4 インチの酸化ガリウムウェハを展示しました。いずれの結晶も、次世代のパワー半導体材料として注目されております。

SiC に関しては、従来、溶液法では困難とされていたインクルージョンの問題を解決し、高品質・高性能な単結晶の育成に成功しました。現在、主要顧客に向けたサンプル出荷の準備を進めております。

新領域

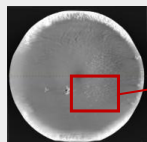
パワー半導体：溶液法 SiC、酸化ガリウム

OXIDE

- 12月1日に子会社オキサイドパワークリスタル社（OPC社）へオキサイドのSiC事業を吸収分割し、事業開始しました。
- SEMICON Japanで溶液法SiCウェハと酸化ガリウムウェハを展示しました。
- 高品質・高性能な溶液法SiCウェハ実現に重要なインクルージョンフリー^{※1}のサンプル開発に成功しました。

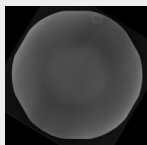
溶液法P型SiC

- 直径 6 インチサイズのインゴット全域でインクルージョンフリーを達成しました。



従来の単結晶サンプル
(X線CT透過画像)

白抜け：
インクルージョン



当社で新たに開発した
単結晶インゴット
(X線CT透過画像)

VB法 酸化ガリウム

- 4インチのクラックフリーインゴットの育成、4インチウェハのサンプル作成に成功しました。



SEMICON Japan
(セラテックジャパン社ブースに展示)

展示した酸化ガリウム
ウェハ



市場予測

- ・ SiCパワーデバイス市場は、2023年の3,870億円からCAGR19%で成長し、2035年には3兆1,510億円になると予想されています。^{※2}
- ・ 酸化ガリウムパワーデバイス市場は、2024年の6億円から、2035年には395億円になると予想されています。^{※2}

^{※1} 単結晶内のインクルージョン（内包物）は、結晶の純度や構造を乱し、品質や信頼性低下の原因となります。

^{※2} 出典:富士経済「2024年版 次世代パワーデバイス&パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」

Copyright: 2024 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

25

光部品：ファラデー回転子

光部品分野についてご説明いたします。

ファラデー回転子とは、光の偏光面を磁場の影響で回転させる「ファラデー効果」を利用した光学デバイスです。光アイソレータや光サーキュレータの中核部品として使用され、光システムの安定性と効率を向上させる重要な役割を果たします。

光通信、レーザ技術、医療、航空宇宙、防衛などの分野で需要が拡大しています。特に、5G通信、クラウドサービス、AIの普及に伴うデータトラフィックの増加により、データセンターの急増を背景に需要が拡大しています。

当社グループは、様々な分野で利用される単結晶と光学デバイスを開発・製造・販売しております。

新領域

光部品：ファラデー回転子

OXIDE

- ファラデー回転子とは、光の偏光面を磁場の影響で回転させる「ファラデー効果」を利用した光学デバイスです。
- 光アイソレータや光サーキュレータの中核部品として使用され、光システムの安定性と効率を向上させる重要な役割を果たします。
- 光通信、レーザ技術、医療、航空宇宙、防衛などの分野で需要が拡大しています。特に、5G通信、クラウドサービス、AIの普及に伴うデータトラフィックの増加により、データセンターの急増を背景に需要が拡大しています。
- 当社グループは、様々な分野で利用される単結晶と光学デバイスを開発・製造・販売しております。

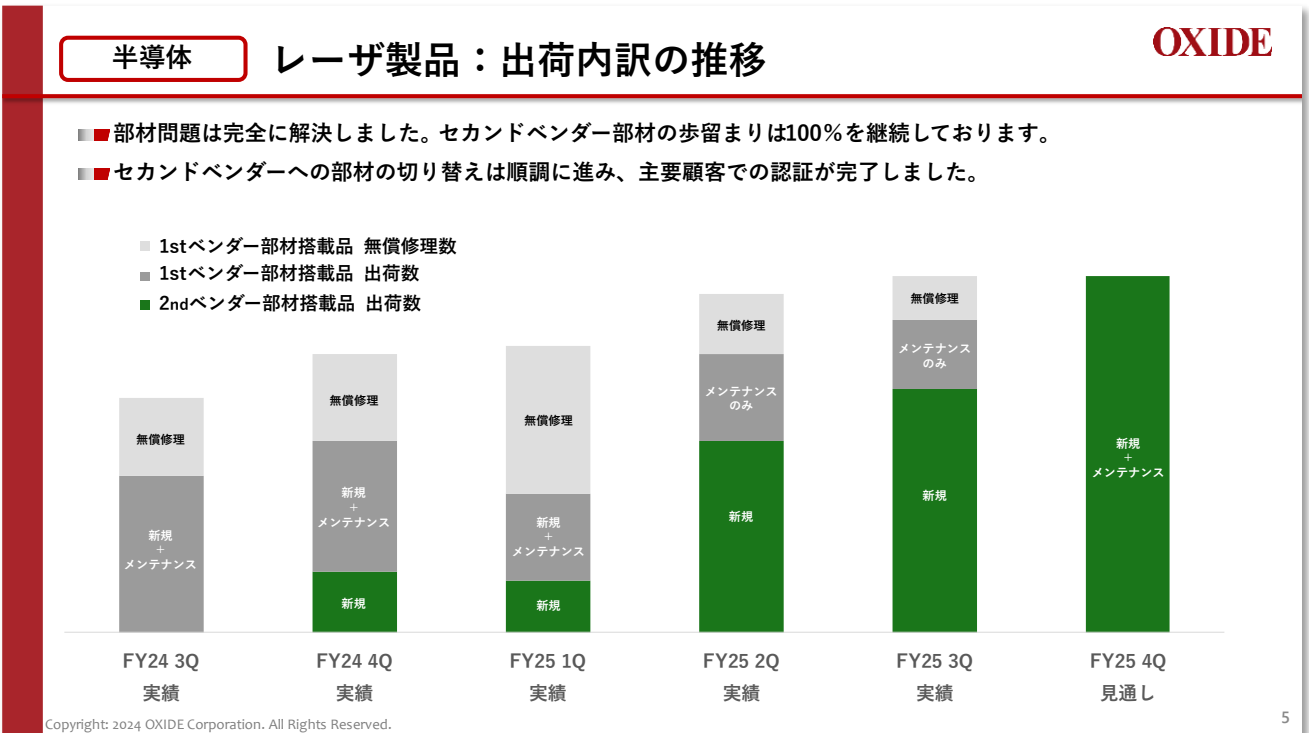
当社ファラデー回転子向け単結晶



市場予測

- ・ファラデー回転子市場は2023年の8億ドルからCAGR7.2%で成長し、2032年には15億ドルになると予想されています。*1
- ・主要企業：
Thorlabs、Newport、Coherent、Gooch & Housegoなど

- Q. 半導体事業における、第3四半期の受注高と受注残高を教えてください。
- A. 受注高に関しては、毎月定常的に一定の金額を受注する訳ではございません。そのため当社では半期（半年）期間での受注高を継続的にモニターしております。第2四半期までは、不具合問題の件もあり四半期毎に開示しておりましたが、今後は従来通りの半期（半年）での開示をさせていただきます。
- Q. 半導体事業において、無償修理が減少していると理解しました。今後は有償メンテナンス需要の増加を期待していますが、需要動向を教えてください。
- A. 開示資料で示しました通り、第4四半期からは無償修理が無くなり、有償メンテナンスが増加する見通しです。こちらは、通期決算にて開示させていただきます。



- Q. ヘルスケア事業において、新規大手顧客が獲得できたのは良いニュースだと思います。今後、新規大手顧客での売上高は、既存大手顧客を超えるのでしょうか。
- A. 新規大手顧客については、今後需要拡大できるように取り組んでおります。また、既存大手顧客についても、当社のシェアアップに取り組んでまいります。新規顧客及び既存顧客の双方にて、ヘルスケア事業の成長を目指してまいります。

ヘルスケア 新規顧客獲得の要因

OXIDE

■ 新規顧客獲得の要因を「育成技術」、「量産技術」、「サプライチェーン」の観点から分析しております。



当社のシンチレータ単結晶インゴット

1

高性能・高品質なシンチレータ素子でPET装置の高解像度化に貢献

育成技術

2

世界最大サイズの単結晶インゴットでコスト競争力の実現

量産技術

3

日本製で地政学リスクの低減に貢献

サプライチェーン

Q. ヘルスケア事業において、脳 PET 装置市場の立ち上がりを期待していますが、最新の市場動向を教えてください。

A. 将来需要が期待される脳 PET 装置向けも継続的に引き合いがあります。当社は、顧客と共同で脳 PET 装置の製品開発に取り組んでおります。脳 PET 装置向けで当社シンチレータ単結晶の需要が本格的に立ち上がるのは数年後になると考えております。

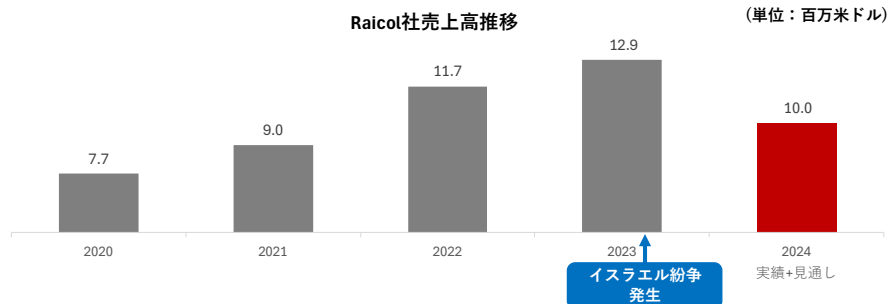
Q. Raicol 社の売上実績推移と、今後の見通しについて教えてください。

A. Raicol 社の売上については、2023 年まで成長してきましたが、イスラエル紛争発生後、売上実績が悪化しており、2024 年売上高は 2023 年対比で 20%程度減少しております。今後の見通しですが、イスラエル紛争がどうなるかはいまだに不透明感があります。また、仮に停戦がなされた場合でも、Raicol 社業績が速やかに回復するかは慎重な見極めが必要です。これらを勘案して、今後の業績予想においては保守的な見込みをすることが妥当であると考えております。一方で、2024 年売上見込みの 1,000 万米ドルについては、イスラエル紛争下であっても Raicol 社の結晶が必要とされている需要と理解しております。

Raicol 社“のれん” 減損の背景と今後の方針

OXIDE

- 2023年3月に買収したRaicol社“のれん”全額に相当する27億1,500万円を減損します。減損の要因は、Raicol社買収時点で想定していた事業計画と実績との間に乖離が生じたためです。
- 乖離の主な原因は、イスラエル紛争以降、一部の顧客からの受注が低迷、イスラエルと一部の周辺国との貿易制限の発生、そして一部顧客におけるイスラエル製品に対するサプライチェーン懸念の高まりを受けた製品切替等です。
- イスラエル紛争による不透明感が拭えないため、Raicol社の今後の成長に関しては買収時より保守的に見込みます。
- Raicol社の技術やノウハウは依然として当社グループ全体の価値向上に寄与するものであり、買収時に掲げた事業領域（量子、宇宙・防衛、半導体）の拡張とクロスセルの強化という戦略方針に変更ありません。



Copyright: 2024 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

12

- Q. 財務コベナンツに抵触する金融機関へ事前報告を行っているとの説明でしたが、コベナンツの内容、コベナンツに抵触する対象金融機関、金融機関からの反応について教えてください。
- A. Raicol 社“のれん”減損により、純資産残高を前期末比 75%以上に保つ純資産維持条項に抵触する見通しです。対象の金融機関は銀行 5 行で、地銀が 2 行、政府系金融機関が 1 行、メガバンク等が 2 行です。イスラエル情勢による Raicol 社“のれん”減損と既存の半導体事業とヘルスケア事業の状況について各金融機関にご説明申し上げ、ご理解をいただきました。当社としましては、従来通りご支援いただけるものと考えております。

財務コベナンツ

OXIDE

- 当社の借入金のうち、52億4,500万円について、今回のRaicol社“のれん”減損によりコベナンツに抵触する見通しです。
- コベナンツに抵触する取引銀行には事前報告を行っております。

2024年11月末 BS

(単位：百万円)

現預金等 2,262	有利子負債 10,561 { 短期借入金：2,900 長期借入金：7,507 }
その他の流動資産 6,257	
固定資産 9,184	その他の負債 2,140
資産	負債・純資産 純資産 5,003

短期借入金

短期借入金残高（2,900百万円）のうち、コミットメントライン契約に基づく短期借入金残高（2,100百万円）が財務コベナンツに抵触する見通しです。

長期借入金

長期借入金残高（7,507百万円）のうち、シンジケートローン等長期借入金残高（3,145百万円）が財務コベナンツに抵触する見通しです。

金融機関への事前報告及び要請

- ・ 短期借入金については、取引銀行に既存のコミットメントライン等の維持を要請中です。
- ・ 長期借入金についても、取引銀行に対して今後のキャッシュフローで現行の通常返済(年間約11億円)は可能である旨を説明し、ご理解をいただいております。

以上